

むっみ

第65号 2019. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

事務局より訂正のお知らせ

この度の「むつみ65号」を発行するに当たり、多くの原稿を頂き、
誠にありがとうございました。お陰様をもちまして、発行の運びとなりました。

その中で、10P「永年勤続者表彰」の20年勤続の部分で、1名の方の氏名が
抜けておりましたので、下記のとおり追加させていただきます。

今後は注意を払い作成したいと思いますので、本協議会へのご支援ご協力を
よろしくお願いします。

記

追加 20年勤続 会津宮川土地改良区 諏訪 美彦 様

目次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	3	第41回全国土地改良大会宮城大会開催	15
新年のご挨拶	会長 鈴木 禎一		〃先人の意志を受け継ぐ「伊達の地」に 水土里の絆 復興の歩み	
	水土里ネット福島	4	年男・年女	
	(福島県土地改良事業団体連合会)		年男	水土里ネット福島
	専務理事 後藤 庸貴			阿部 優樹
「闘う土地改良」―未来への礎を築くために			年男を迎えて	請戸川土地改良区
	全国水土里ネット会長会議	5		半谷 裕明
	顧問 宮崎 まさお		『手書き』	水土里ネット福島
第42回総会		7		杉内 貴紀
ご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	11	「年男となって」	会津北部土地改良区
	前会長 湯浅 裕治			川口 貴也
永年勤続			感謝	鮫川堰土地改良区
10年目をむかえて	磐城小川江筋土地改良区	12	「年男を迎えて」	水土里ネット西根堰
	酒井 明美			石川 博利
永年勤続10年ということで	水土里ネット福島	12	私の財産	水土里ネット福島
	平林 雄太			三浦 功司
永年勤続30年	須賀川市土地改良区	13	「今年もお世話になります」	水土里ネット福島
	橋本 雄司			齋藤 孝美
永年勤続表彰をいただいて	会津北部土地改良区	14		
	磯部 和孝			

新会員のみなさんより

新会員となって一言……………福島市土地改良区……………22

佐藤 務

土地改良区業務体制の活性化に向けて……………梁川町土地改良区……………22

小賀坂 清

宜しく願いいたします。……………郡山市東部土地改良区……………22

吉田 江里

宜しくお願い致します。……………水土里ネット福島……………23

斎藤 希理都

宜しく願いします……………郡山市東部土地改良区……………24

大越 隆広

宜しく願いします。……………柳津町土地改良区……………24

鈴木 悠愛

これが本当の水商売……………矢吹原土地改良区……………25

佐藤 治学

平成30年度土地改良区職員となって……………南相馬市土地改良区……………25

高野 啓二

土地改良区職員としての抱負……………福島市土地改良区……………26

須田 剛広

よろしく願いいたします。……………矢吹原土地改良区……………27

吉田 啓恭

土地改良区職員になりました……………戸ノ口堰土地改良区……………27

高野 豊

高卒の新入社員……………安積疏水土地改良区……………28

白石 哲也

土地改良区職員になって……………富岡町土地改良区……………28

山田 秀顕

出会いに感謝……………雄国山麓土地改良区……………29

飯塚 望

よろしく願いします……………水土里ネット福島……………29

笠原 綾乃

はじめまして……………阿賀川土地改良区……………30

丸山 瑠依

「自己紹介と目標」……………水土里ネット福島……………31

半田 大樹

福島に来て……………請戸川土地改良区……………31

芳門 里美

よろしくおねがいします。……………東根堰土地改良区……………32

菱沼 茂樹

土地改良区職員となって……………鮫川堰土地改良区……………33

狩野 聡史

土地改良区職員になって……………棚倉町土地改良区……………33

長田 麻美

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 鈴木 禎一

謹んで新年の祝詞を申し上げます。

会員の皆さまにおかれましてはつつがなく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は本協議会運営に特段のご支援、ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

平成も残り数ヶ月、もうすぐ新しい時代がやってきます。いつもは、某局の『歌合戦』の蛍の光で「もうすぐ今年も終わりだなあ」と思い、ゆく年くる年の除夜の鐘の音で「年が明けたなあ」と思うのが、いつも私の越年だったのですが、今回は少しばかり気持が入りました。新年を迎えるにあたり、新しい時代にすべきことは、新しい時代への抱負は、などということに思いを馳せてみました。（気の利いたことは思いつかなかったので披露はしません。）

今年、土地改良区では土地改良法の大きな改正が施行されます。皆さまにおかれましては、施行に向けた準備で何かと忙しい日々を過ごしているものと推察します。苦労はありますが、土地改良区が良くなるように、という思いを皆が同じく持つて臨めば、土地改良区全体が一つ

新しい時代へ進んで行くことができるのだろうと思っているところです。（土地改良法の改正の内容については言いたいことは沢山ありますが、それは別の機会に。）

新しいものを取り入れることは、労力ばかりではなく、それを支えていく気持ちも大切です。私が、以前一緒に仕事をした企業の方に聞いた話で、今でも教訓にしているものです。

「当社が不景気の中、唯一業績を伸ばしてこれたのは、時代をみて変わる決断ができたこと。そのために、何よりも大切だったのは、変わることを恐れない社員を育成すること。」

そうです。やっぱり『人』なのですね。厳しい状況であっても、『人』がしっかりしていれば何とかなるものです。私は東日本大震災のときにそれを痛感しました。

土地改良区においても、やはり重要なのは『人』、つまり職員と言えます。職員一人一人のスキル、モチベーションが土地改良区の根幹であり、それが土地改良事業団体、農業を押し上げていく力に繋がっていくのだと私は思っています。

その職員を支えるために、本協議会で私に何ができるか？職員のスキルアップを始め、職場環境の充実、心身の健康促進など様々な視点で職員交流ができるような役割を担っていればと考えています。微力な私には少々荷が勝っていますが、役員の皆さま、土地連事務局の皆さまの力添えを得て尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、昨年の総会で退任された湯浅前会長、前役員の皆さまの本協議会へのご尽力とご貢献に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

新年のご挨拶



みどり
水土里 ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 後藤 庸 貴

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
今年では亥年で十二支の最後の年。十二支を植物の一生に例えると、戌年で実った果実が種子になり、エネルギーを蓄えて次の世代へ向かう準備をするという意味の年だそうです。

最後の年と言えば、当時の内閣官房長官であった小渕恵三氏が「新しい元号はヘイセイであります」と言いながら新元号「平成」を墨書した台紙を示したのが今から三十年前。今年の四月三十日をもって「平成」が終わりますが、新たな時代の幕開けとなる年でもあり、亥年の意味が示すように新たな芽吹きに備え準備をする年になるのではないでしょうか。

皆さんご存じのように、昨年土地改良法が改正され、今年四月一日に施行されます。土地改良区の体制強化に向けて今回の改正では、准組合員制度が創設されるとともに、地域の活動組織が施設管理准組合員として、施設の維持管理に参加することができるようになります。また、施

設の更新事業費を計画的に確保していくための複式簿記や、員外監事の導入が求められるなど、最近の農業農村を取り巻く環境の変化に土地改良区が即応できるよう思い切った改正内容となっています。

国では農地の八割を担い手に集積することを目標に様々な施策を展開しています。現在の土地改良区の組合員の多くは兼業農家となっておりますが、土地改良区管内の組合員の減少や高齢化などに伴い、担い手への農地集積・集約化が進むことにより、土地改良区を取り巻く環境は今後大きく変貌することが見込まれ、時勢に合わせた運営や体制強化が求められるようになります。

福島県では、平成の市町村合併により九十市町村が五十九に、農協合併により十七農協が五つに減少広域化したことにより、地域住民へのサービスが低下しているという意見もある中であって、公共性や広域性を備える土地改良区は、土地改良施設の整備や維持管理を通して、地域農業を支えるとともに、自然環境や生活環境の保全、防災・減災対策など様々な公益的な役割も果たしています。これらの役割は、地域で農業が営まれる限り求められ、そのためにも土地改良区は安定した組織、言い換えれば人的にも経済的にも強い組織にならなければなりません。

冒頭に述べたように、今年四月をもって平成が終わり新たな時代が始まります。私たち土地改良に関わる者も、新しい時代に乗り遅れないよう将来を見据え新たな気持ちで進んで行きましょう。

結びになりますが、この一年が福島県土地改良団体職員連絡協議会の会員の皆様にとりまして、希望と幸せに満ちた素晴らしい年になりますよう心よりお祈りいたしまして、新年のご挨拶いたします。

「闘う土地改良」

― 未来への礎を築くために ―



全国水土里^{みどり}ネット会長会議

顧問 宮崎 まさお

新年明けましておめでとうございます。皆様方にはおかれましては、良き年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

私にとっては、いよいよ決戦の年となりました。

全国の関係者の皆様の土地改良に対する熱い思いに触発され、全国水土里ネットの二階俊博会長が提唱された「闘う土地改良」の旗のもと、不退転の覚悟で政治活動に取り組むことを決意し、一昨年末、三十年間勤めた農林水産省を地域整備課長を最後に退職しました。昨年一月には全国水土里ネット会長会議顧問を仰せつかり、この一年間、全国各地で地域の実情や意見をつぶさに拝聴させていただきました。これまでの移動距離は地球五周分の二十万kmになりました。

昨年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震をはじめとする地震、台風、さらには噴火など、全国各地で自然災害が相次ぎました。被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災地の日も早い復旧・復興

を願ってやみません。また、被災地の状況をお聞きするたびに、防災・減災対策は一刻の猶予も許されないとの思いを強くしています。

私の実家は兵庫県の農家です。田んぼや山に囲まれて育ちましたが、この一年全国を訪問する中で、四百五十万haの農地と四十万kmに及ぶ農業用水路・排水路、そしてこれを支える土地改良組織が一体となつて、食料の安定供給と多面的機能の発揮を通じ、国民の食とくらしを支えていることを改めて実感しました。

土地改良は、先人が創り上げてきた農地やかんがい排水施設などをそれぞれの時代に応じて整備を行い、次の世代に引き継いでいくシステムです。つまり、土地改良は、現在の農業の発展はもとより、日本の「未来への礎」を築くものであると考えています。

私は、現場でお聞きした様々な課題を解決し、日本のすばらしい農山漁村を「未来への礎」として、子どもや孫たちに引き継いでいくため、「大切な農地と水を守る」「農山漁村を災害から守る」「美しい農山漁村を守る」という3つの目標のもと、これを実現するため、土地改良の安定的な予算確保や災害に強い農山漁村づくりなど、7つのチャレンジに全力で取り組んでいく考えです。

とりわけ土地改良予算については、「闘う土地改良」の旗のもと、関係者の努力により回復基調にはありますが、地域の切実な要望に応えるためには、当初予算の回復・拡大が必要です。国政の場において、進藤金日子議員が「闘う土地改良」の先陣を担っておられますが、私もその一翼となれるよう、全身全霊をもって活動に打ち込んでいく考えです。そして、現場と国政の間を、私の好きなテニスのボールのように素早く

往復し、現場の声を施策に反映していきたいと考えています。

今年は天皇陛下が御退位され、元号が変わる大きな節目の年です。新しい時代の始まりの年でもあり、土地改良にとっても大きく羽ばたく年にしなければなりません。皆様の土地改良に対する熱い思いと大きな力を、私、宮崎まさおに賜りますようお願いいたします。

むすびに、本年が皆様にとって実り多き年となりますように祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

宮崎まさお3つの目標

○大切な農地と水を守る！

○農山漁村を災害から守る！

○美しい農山漁村を守る！

7つのチャレンジ

1. 土地改良の安定的な予算確保にチャレンジ
2. 災害に強い農山漁村づくりにチャレンジ
3. 農地や水を守り育てる体制の強化にチャレンジ
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承にチャレンジ
5. 世界に日本の農林水産業と農山漁村のすばらしさの発信にチャレンジ
6. 女性の視点を大切にした農山漁村政策の展開にチャレンジ
7. 農林水産業と農山漁村への国民の理解づくりにチャレンジ



第42回総会

第42回総会は、平成30年7月12日（木）猪苗代町「ホテルリステル猪苗代」において開催された。

総会は、菅波孝光副会長（愛谷堰土地改良区）の開会宣言により開会し、湯浅裕治会長（会津北部土地改良区）より挨拶があった。



会長挨拶

続いて永年勤続者表彰式が行われ、永年勤続者の代表の方に会長より表彰状が授与され、あわせて記念品が贈呈された。



来賓祝辞：鈴木副部長



来賓祝辞：後藤専務理事

表彰された方々は別頁のとおりです。受賞者の皆様の御健康とますますの御活躍をお祈りいたします。

表彰式後、来賓の福島県会津農林事務所農村整備部副部長鈴木浩治様、福島県土地改良事業団体連合会専務理事後藤庸貴様より祝辞をいただいた。



議長：大桃氏

議長に戸ノ口堰土地改良区の大桃智子氏を選出され、挨拶の後議事に入った。

議案第1号「平成29年度事業報告の承認について」、議案第2号「平成29年度収支決算の承認について」が一括議題として出され、事務局の説明、大竹伸明代表監査員（会津大川

土地改良区）の監査結果報告の後、原案のとおり承認された。

議案第3号「規約の一部改正（案）について」、議案第4号「平成30年度補正予算（案）について」、議案第5号「平成31年度会費・協賛金の額及び徴収方法（案）について」、議案第6号「平成31年度事業計画（案）について」、議案第7号「平成31年度収支予算（案）について」は事務局の説明後、いずれも原案のとおり承認された。





議案第8号「役員の改選について」は選任方法に事務局案との声があり事務局より候補者の案が提示され、採決の後選任された。別室において会長・副会長・代表監査員の互選会が行われ、会長に県南方部・矢吹原土地改良区の鈴木禎一さん、副会長に会津方部・会津若松市湊土地改良区の五十嵐賢一さん、いわき方部・愛谷堰土地改良区の菅波孝光さん

ん、土地連の渡辺隆さん、代表監査員に伊達西根堰土地改良区の石川博利さんが選任された。

※新役員は別表のとおりです。

新役員の皆様には、本協議会の円滑な運営のためご活躍いただきますようよろしくお願いいたします。

総会は、渡辺隆副会長（福島県土地改良事業団体連合会）の閉会宣言により終了した。



福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

（平成30年度～平成31年度）

役職	氏名	所 属	方 部
会 長	鈴木 禎一	矢吹原土地改良区	県 南
副 会 長	菅波 孝光	愛谷堰土地改良区	いわき
副 会 長	五十嵐 賢一	会津若松市湊土地改良区	会 津
副 会 長	渡辺 隆	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹 事	齋藤 享子	梁川町土地改良区	県 北
幹 事	氏家 智美	東根堰土地改良区	県 北
幹 事	根本 和俊	安積疏水土地改良区	県 中
幹 事	荒海 裕一	郡山市東部土地改良区	県 中
幹 事	緑川 源治	杜川沿岸土地改良区	県 南
幹 事	鈴木 勝	布藤堰土地改良区	会 津
幹 事	佐藤 慎子	駒形土地改良区	会 津
幹 事	斎藤 昌教	阿賀川土地改良区	会 津
幹 事	山内 翔	只見町土地改良区	南会津
幹 事	武田 美香	南相馬土地改良区	相 双
幹 事	半谷 裕明	請戸川土地改良区	相 双
幹 事	佐久間 茂	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
代表監査員	三浦 宏幸	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
監 査 員	石川 博利	伊達西根堰土地改良区	中通り
監 査 員	後藤 学	高郷土地改良区	会 津
監 査 員	馬目 善市	鮫川堰土地改良区	浜通り

業務研修会

業務研修会では、「多面的機能支払交付金と土地改良区について」を福島県農林振興課佐藤輝幸主任主査に、「会津清酒おもてなし講習会」を榮川酒造株式会社宮森優治代表取締役社長にお話しいただいた。

2日目の現地研修では、軟弱地盤EPS工法経沢地区、会津若松ウィンドファーム（風力発電）を視察した。



県農林振興課 佐藤主任主査



会津清酒おもてなし講習会



軟弱地盤 EPS 工法 経沢地区



会津若松ウィンドファーム



永年勤続者表彰

30年勤続

須賀川市土地改良区
社川沿岸土地改良区
福島県土地改良事業団体連合会

橋本雄司
山寺一
工藤純久

20年勤続

会津若松市湊土地改良区
大玉土地改良区
会津宮川土地改良区
安積疏水土地改良区

五十嵐賢一
渡邊勝典
歌川幸二
根本和俊

10年勤続

白河市土地改良区
磐城小川江筋土地改良区
会津北部土地改良区
福島県土地改良事業団体連合会
福島県土地改良事業団体連合会

大竹哲也
酒井明美
磯部和孝
平林雄太
伊藤慎之介



ご挨拶

福島県土地改良団体職員連絡協議会

前会長 湯 浅 裕 治

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご健勝で平成31年の新春をお迎えのことと心よりお祝い申し上げます。

平成28年度に遠藤前会長の後任として、会長職を仰せつかり副会長をはじめ役員の皆様、会員の皆様並びに事務局の皆様の一方ならぬご支援をいただき2年間、力不足でありましたが無事に務めることができましたことに感謝申し上げます。

さて、今年の干支は、己亥（つちのとい）年ですが本来、干支は十支（じっかん）と十二支の組み合わせであり、同じ干支は60年に一回となります。

十二支の亥には、「勇気と無病息災」の意味があるそうです。ほかに「田の神・作物の神」の意味があるそうです。本来、十二支は動物ではなく植物の季節ごとの様子を表しているもので、亥は種子に栄養が閉じ込められた状態を表しているものとのことです。平成31年は力を蓄え更なる飛躍に向けた年にしたいと思っております。

思いおこせば、平成5年に会津北部土地改良区の職員に採用され、早いもので26年が過ぎようとしております。当時は、国営かんがい排水事業が完工し、大規模な造成事業のピークが過ぎ土地改良施設の維持管理事業に移行する時期でありました。私は、農家に生まれましたが郷里を離れ会社員をしていたこともあり、農業や土地改良事業に関して何も分からない状況でした。当協議会や研修会等を通じ他の土地改良区の方々と出会え、色々な話を聞くことができたことは、私にとって非常に有意義であったと思っております。

近年、当協議会の会員も随分、若い方々が増え世代交代が進んでいるよう感じられます。若い世代の方には、明るい農業農村の未来を創造すべく持てる力を十分に発揮していただけるよう頑張ってくださいと思います。

最後になりますが、皆様の今後、益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。

本当にありがとうございました。

永年勤続

10年目をむかえて

磐城小川江筋土地改良区
酒井 明 美



この度は、10年勤続表彰を頂き、ありがとうございます。振り返り、ますと無我夢中であつという間の10年でした。

土地改良区の業務に関しては、無知の状態からのスタートでしたので、農業を熟知した組合員の皆さんと関わりをもち仕事をするのは正直とても大変でした。

その中で、多様な知識が求められる職種であると実感しています。

賦課金徴収に加え、5つの排水機場管理、今年度から始まったほ場整備事業と業務の幅の広さと奥深さを痛感しております。農業用水路の維持管理と言っても小川江筋の歴史はとても古く、多段式の木工沈床の造りは、構造的にすばらしいと感じています。そのうえ自然と調和した美しい堰なので、徳島県吉野川の第十堰、福岡県筑後川の山田堰と比較されて高い評価をうけているとのこと。

四百年近く、大規模な改築もせず、その機能を果たしているこの堰は、水の流れを読んだ先人達の知恵の結晶だと私も思っています。

そのため維持管理は勿論ですが、地域の財産として守り続けられるように、管内の小学4年生の社会科の

授業として、施設見学説明会なども行っています。小川江筋の歴史や役割を知ってもらうことで、将来的に農地を後世に引き継いで行くことができるのではないかと考え、改良区職員としてこれからも携わっていきたいと思っています。

職員となり、節目の10年をむかえました。これまでご指導いただいた事を活かし、改良区の一員として日々の業務に努めて参りたいと思っています。

永年勤続10年 ということ

水士里ネット福島

平 林 雄 太

永年勤続10年ということで、執筆の機会を頂いたので、思いついたままに書き綴った文章を寄稿させていただきます。と思っています。

ひとことで10年という早いもので、というような話をよく耳にしま

すが、10年はそれなりに長かったと感じます。私は一つ所に長くいるタイプの人間ではないと思っているので、これだけ長く所属するのは小学校は6年間でしたのでそれ以来ということになります。今年平成30年で平成最後ですが、平成19年に入会して12年目を過ごしているところで、初めの年は測量課に配属され確定測量や路線測量をやるために出張づくめの毎日だったと記憶しています。年度末が近づくと泊まり込み出張も多く、月の出張日数が20日を超えていたのが思い出となっています。今思うと、ほ場整備の着工前と完成後を一番見れていたのは実際に設計絵図を描くときに実感として活きていると感じます。それと毎年測量規定が改正されて技術も日進月歩で新しい基準は増えていきますが、基礎はここで学ばせてもらったと改めて思います。

その後、やはり外せない出来事としては東日本大震災の発生です。発生前は設計畑に異動したばかりでしたが、移動したばかりだからこそ継続で持っていた地区がなかったため、ほぼ1年間は災害設計に携わることができました。昼間は現地測量に行つて、トータルステーショ

ンで測量して夜には平面図に起こす作業をやっているときに測量課を経験して良かったなと思います。また、災害査定も毎週役場の方と出席して、指摘事項を持ち帰り手作業で図面や設計数量を直し、積算書もシステムを使わず電卓で赤書きするという経験は中々貴重な体験でした。おかげで、役場の方と交流して、いろいろ教えてもらうことも出て、それもまた貴重な体験だったと思います。外部の方でいえば、県外から応援に来ていただいた土地連の方からも学ぶことは多かった。西日本の台風災害などが多い土地連の方々の災害対応は迅速で福島、東北とは練度が段違いだと感じました。

最後に今の部署に異動してまだ2年目ではありますが、新規発足の課で積算システムや維持管理計画書の説明会を通して改良区や市町村の方々と触れ合う機会も増え、問い合わせなども多くいただいて中々忙しい日々ではありますが、皆さんに頼っていただいているからには、それに応えられるように研鑽を欠かさないようにしたいと思います。

本当に最後になりますが、この10年で食べた県内飲食店思い出ランキングベスト5で締めたいと思います。

5位 西郷村 いまの家
白河ラーメンは醤油が基本ですが、ここの味噌ラーメンが美味しいですね。擦りおろしたニンニクが効いているので午後打ち合わせがあるときはNGですが。

4位 いわき市 やきかつ太郎
トンカツというと会津地方が多いですが、焼きカツは独特だと思っています。ソースではなくニンニク醤油で食べるのが美味しいので午後打ち合わせがあるときはやっぱりNGです。

3位 会津若松市 牛乳屋食堂
有名店ですが、思い出にあるのは月に一回の料金半額の日にたまたま行って、ラーメン大盛とかつ丼を食

べたことです。午後の仕事も考えて昼食は摂るようにしたいですね。

2位 葛尾村 石井食堂

安い、多い、旨い。近くで現場に入っているときに通いました。ラーメンどんぶりに入ったカツカレーがおすすめです。震災後、再開されたと聞いて本当に良かった。

1位 福島県の農産品食材を使つたすべてのお店。

と、いうことで、まだ見ぬ福島県の農産品を活かしたご飯のために、今後も尽力したいと思います。やはり福島県はお米も野菜も美味しいですからね。大変雑駁ではありますが、挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

前回の執筆からもう10年が過ぎた。

永年勤続30年

須賀川市土地改良区
橋 本 雄 司

あのときは、確かライフワークのバスケット関連で「NBA」云々について感想を書いた記憶がある。今回も自分のバスケット人生について書いてみようと思う。私は未だにプレーヤー・「現役」である。しかし、2019年には58歳を迎える、我ながら年を取ったと感じている。自分としては何とか60歳まで、現役を続けようと思っていたが、1月に半月板を痛めてしまい、この1年間はほとんどリハビリに費やしてしまっただ。若い頃と違い、この1年近くのブランクは痛い。怪我をする前に比べると著しくパフォーマンスが落ちてしまった。まず、ユーロステップどころかダッシュもままならない

し、走れないのだ。ジャンプ力もかなり落ちたというか、ほとんどコートから離れていない。息も切れる。普通の57歳のおっさんになってしまった。何よりも膝が痛い。このまま続けるにはこれと言つての才能がない。身長は181cmあるが、バスケットマンとしては決して大きい方ではないし、言ってみれば使い道がないのだ。いつかは来るだろう恐れていた「引退」の2文字が頭をよぎる。年齢的に見れば決して不思議ではないのだが、まだちょっと未練がある。少し前に3歳になる孫にマイチームのユニホームを作った。どこかに孫と一緒にバスケットがしたいと思つている今日この頃なのだ。思わぬ形で「その時」が訪れたのかもしれない。

ここで、永年勤続30年について思いを書こう。

間もなく新年号になる。「光陰矢の如し」という言葉が一番しっくりする。長いようであつという間だった。何もわからん新参者が、いまや最古参である。当初から携わったのは場整備事業箇所は9地区。現在は3地区の事業を手がけている。この3地区が終われば漸くお役ごめんになる予定と思う。

私が大学を出た頃は新人類と呼ばれていた。あの頃は何も考えず只ひたすらがむしゃらに進んでいたと思う。その頃が大変懐かしい。

いまは、「終活」、いわゆる第2の人生、退職後の生活について家内とよく話すようになっていた。仕事でも「その時」が近づいていると感じている。

この日までに先輩、同僚、土地連、県、市の皆様方、本当にたくさんの方々にお世話になった。改めて「感謝」。あと数年いろいろと宜しく願う。謝々。

永年勤続表彰を いただいて

会津北部土地改良区
磯 部 和 孝

この度は永年勤続表彰をいただき誠にありがとうございます。平成20年4月より会津北部土地改良区に勤務してから、はやいもので10年が

経過してしまいました。

思い起こせば事務所に勤務したての頃は、先輩方がしゃべっている内容がよく分からず、会話の中で出てくるフレーズを後から調べてみると、意味不明なことを質問してみなさんを困らせてみたり、組合員の方からの電話では、対応の仕方がわからず呼び鈴がなるたびにどきどきしていたことを思い出します。（同期のお姉さんは呼び鈴がなる前に電話に出ていました。）

現場においても、この水はどこから来ているの？から始まりました。ダム・頭首工はどこにあるの？幹線用水路はどこからどこまで？施設の操作方法は？水の調整はどうすれば良いの？管内にある施設を覚えるだけでも大変でした。

そんな私でも10年という月日の中で、今まで点と点でしかなかったものがだんだんとつながりだし、会津弁まるだしの電話対応にもなれ、仕事に対するやりがいや様々な人のつながりを得ることができました。

これからも日々精進を重ね、組合員の皆様の付託に答えられるようがんばっていききたいと思います。

各土地改良区の皆様におかれまし

ては、今後ともよいアドバイスや温かいご指導をいただければ幸いに思います。

話しは変わりますが、わたくし今回で3回目の年男を迎えることとなり、併せて娘も年女を迎えることとなりました。つい最近小学校に入學したばかりだと思つていたのに月日の流れが速く感じるようになったのかなと思います。

娘ももうすぐ中学生になり、勉強に部活、友人たちと充実した生活を送ってもらいたいなと願いつつ、わたしも娘に負けたくない気を引き締めてがんばっていききたいなと改めて思うところです。

最後になりますが、会員の皆様にとって本年も良い年でありますようご祈念申し上げ、結びといたします。



第41回全国土地改良大会宮城大会開催

“先人の意志を受け継ぐ「伊達の地」に 水土里の絆 復興の歩み”



第41回全国土地改良大会は、平成30年10月16日（火）、宮城県総合運動公園（グランディ21）セキスイハイムスーパーアリーナにおいて、“先人の意志を受け継ぐ「伊達の地」に 水土里の絆 復興の歩み”をテーマに、全国から約6,000名の土地改良関係者が集い開催された。

式典では、水土里ネットみやぎの伊藤康志会長が「この大会

が東日本大震災のみならず、全国各地で頻発する地震、台風や大雨などによる災害からの、復旧・復興への決意を新たにするひとつの契機となることを心より願う」と挨拶した。

続いて、全国水土里ネット（水土里ネット和歌山）の二階俊博会長が主催者を代表し、「来年度は、土地改良にとって、二年続けて改正された新しい土地改良法を基軸に、新たな展開を図る大きな節目の年となる。この年を実りあるものとするために『闘う土地改良』を継続していく必要がある」と挨拶した。

このあと、来賓祝辞、感謝状贈呈、土地改良事業功績者表彰が行われ、本県からは、井上用水堰土地改良区理事長下山田嘉七氏が「全国土地改良事業団体連合会長賞」を受賞した。

基調講演、基調報告、宮城県の優良事例紹介、大会宣言の後、次期開催県である水土里ネット岐阜に大会旗が引き継がれ、式典を終了した。（第42回の岐阜大会は2019年10月16日開催予定）



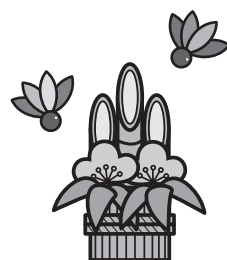
全国土地改良事業団体連合会長賞受賞

下山田 嘉七氏

井上用水堰土地改良区理事長



年男・年女



年男

年男

水土里ネット福島

阿部優樹

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年から本会でお世話になっており、まだ社会人2年目の駆け出しですが、人生二度目の年男となりました。今年は平成最後の年であり、5月1日から新元号となる年です。そのような年に年男となり、これをよい機会とし、なにか新しいことにチャレンジする1年にしたいと思っています。

「むつみ」の原稿執筆は二度目となります。昨年、新会員の挨拶で執筆させていただいた際、周囲の方々

から「めったに載れるものじゃない」「なかなかできない体験だよ」と教えていただいていた。そのため、もう次に執筆できるのは10年後くらいになるのかな、などと思っていたが、今年、執筆の依頼をいただき、2年連続で執筆させていただくという貴重な体験をすることができて、本当に驚いています。

今年の目標ですが、仕事では、昨年までで携わらせていただいた業務の経験を可能な限り生かして、今年は昨年より少しでも多く業務の助けができるよう努力していきたいです。そして、微力ではございますが農業に携わる方々の力になればと思います。

また、私事で、目標の前にご報告になってしまのですが、昨年12月に学生時代よりお付き合いしていた方と入籍させていただきました。

妻は、福島出身ではなく、栃木県

那須塩原市出身で、そこから約10km離れている私の故郷の福島市飯坂町まで嫁いできてくれました。栃木県でしていた仕事も退職し、遠い未知の土地に来てもらったことに本当に感謝しております。そこで家庭での目標となりますが、私も実家を出て2人で暮らし始めたので、今の生活に慣れることが一番初めの目標だと思っています。食事を作ること、食べることも、掃除や洗濯をすることもゴミを捨てに行くこと、さえ、初めての場所で行うことで、新しいことをしているような新鮮な気

持ちで行っています。いまの気持ちを忘れずにお互いに支えあっているような暖かい家庭を築いていきたいと思っています。

また、個人的な本当に小さい目標ですが、2年連続健康診断で脂肪肝と診断されてしまったので、健康管理に気を使い、適度な運動と食事の制限をしていきたいと考えています。その際、妻が管理栄養士の資格を持つているため、ガッチリと食事管理をお願いし、健康な体作りをしていきたいと思っています。

まだまだ社会人としては未熟者の私ですが、仕事と家庭という二足の草鞋を履く状況です。そのため、今までより仕事も私生活も一層精進し、何事にも猪突猛進してまいりますので、本年もご指導のほどよろしくお願いいたします。



年男

年男を迎えて

請戸川土地改良区

半 谷 裕 明

新年明けましておめでとうございます。

年男・年女という事で執筆の依頼がありました。中々こういった企画に馴れておらず、何を書けば良いかと思いましたが、一応主旨を踏まえながら今年の抱負を書かせて頂きます。

私は福島県立双葉高等学校を卒業し在学中は硬式野球部に在籍し青春時代を過ごしました。こんな経歴を初めてお会いする方に伝えと、「甲子園に出たの？」と良く聞かれますが、残念ながら甲子園出場には至りませんでした。(成績は第2シードでベスト8)しかし高校を卒業し5年後には後輩達が三度目の悲願であった甲子園出場を果たしてくれました。その時は自分の事の様に喜んだのを今でも思い出します。

東日本大震災・東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により現在は浪江町から福島市に生活拠点を移し

ながら、浪江福島間の通勤に明け暮れております。朝は朝日を浴びながら、帰りは夕日を浴びながら国道114号線を家族のため請戸川土地改良区のために日々通勤に耐え忍んでおります。その通勤途中には小動物と対面する場面が度々有ります。

サイズが小さな動物は道路に横たわっていても何とかクリア出来るのですが、我が干支イノシシの大人サイズが不慮の交通事故で横たわっていると普通車がそのまま通過出来ず、二次被害事故に繋がる事案見受けられております。何かと我が干支が世間の厄介者になる映像がテレビ等で報道されるのを見ると残念な気持ちになってしまふのは私だけでしょうか。

福島市にお世話になり、息子も現在は中学2年生、春には中学3年生になります。小学時代から父親の押しつけで野球をやるハメになった息子。小学2年から福島市の学童野球チームにお世話になり、ついでに私も野球経験者という事でコーチに就任したのが事の始まり。小学6年生になり学童野球チームを卒団し私も自由な時間を謳歌出来るかと思ったのも束の間、長男も真剣に野球に取り組み、中学校の部活ではなく中学

硬式野球のクラブチームに入団することになりました。私も頼まれれば「出来ません」と言えず、又もやクラブチームのコーチを引き受けてしまふ事になりました。中学硬式野球と小学校の指導とは全てに於いて違い、規格(一般と同じ)が大きく

なりノックひとつするにしても、4回目の年男の身体に肉体的に大きな負担を来たしております。長男と一緒にのユニホームを着て野球に係わる

年男

『手書き』

水土里ネット福島

杉 内 貴 紀

平成5年4月に入会し、早いもので25年が経ちました。測量課、集落排水課、建設課、農村整備課を経て現在は施設管理課に配属となり、ストマネ保全計画策定を主の業務としています。

これまで経験した業務で印象に残ることを紹介したいと思います。

平成9年〜10年度は集落排水処理施設建設工事の工事監理を主な業務

ことが出来るのも今年が最後になるでしょう。高校からは親の手元から離れて行くことになります。丁度節目の年男ということもあり、最後の1年としてチームに感謝の念を込めながらチーム、息子のために力を尽くして行く所存です。

最後になりますが、乱筆ではございましたが、これにて終わりとさせていただきます。

とし県内の工事現場を行き来してました。工事現場では市町村担当者と同席し、その日の打合せをした確認事項や指示事項をその場で手書きによる業務日誌を作成し市町村担当者とは現場監督員へ手渡すことを上司より徹底的にたたき込まれ実施してました。これを実現するためには的確に、簡潔に、わかりやすい日誌を作成することが必要であり、更には手書きのスピード、見やすい字、文書構成等が重要となります。はじめは戸惑いが多く時間がかかりうまくできなかったのですが、何回も行っているうちに要点を見いだし、ポイントをつかむことができるようになりました。今思えばこのときの

専門知識習得、文書作成に必要なとなるテクニック、要点的把握等が今に繋がっており、平成26年度には技術士資格を取得することができたことは、この経験が間違いなく生かされています。

近年、パソコンによる業務が主流となり、一人一台の配布を受けパソコンに向かって業務することが一般的になりましたが、入会当時は手書きが主流で測量課では手簿の手書き、集落排水課では図面へのハンコ押しが懐かしく思い出されます。パソコンによる業務では文書作成も行いますが、時には時間がかかる事も多く、先に作成したものの影響を受けやすいため自分の文書にならない

年男

「年男となって」

会津北部土地改良区

川口 貴也

明けましておめでとうございます。
今回「むつみ」の執筆依頼を受け、自分が年男だと言うことに気がつき
ました。年男と言っても2回目です。

ケースがあります。決められた様式に記入する場合はパソコンで作成しますが、これまでの自分の経験から入力前には必ず手書きの下書きをすることを心がけ要点的把握、簡素的確な言葉となるよう努めています。

自分は今まで業務打合せ簿は手書き、スケジュールの管理は手帳に行っています。現在パソコン、スマホの時代には逆行することかもしれないませんが、字を書くという行為は自分の成長には非常に重要な要素と考えており、これからも続けていきたいと思っています。
皆様はどれだけ字を書いていますか？

回の時は、そのことに気づかずににも意識せずにいたので、折角の機会なので今年の抱負を考えてみました。

会津北部土地改良区職員として採用されて2年目のこの1年を振り返ってみると、長いようであつという間な1年だったと感じました。業務としては、夏場の水不足の現場対応や工事に伴う水廻し、分水ゲートの補修工事等の発注業務など、新た

な経験もありました。

分らないことだらけで、先輩方に色々教えて頂きながら業務に励んでいました。その中で共通して思ったことが、自分のコミュニケーション能力の低さでした。組合員の方々や工事を担当されている業者の方、各業務の関係者の方との打合せ等で会話をする時に、自分の思っていること・伝えたいことを相手に上手く伝えることが難しく、お互いの認識が一致しないまま話が進んでしまったこともありました。そのため、今年は会話の中で、自分の伝えたいこと、相手が伝えたいことを確認して、落ち着いて話せるように心がけていきたいです。また、知識的にもまだまだ分からないことだらけなので、少しでも早く多くの知識を吸収して、分かりやすく相手に伝え、聞かれた事にすぐ返答できるようにしていきたいです。

私生活の面では、健康に気をつけたいです。学生時代は野球をメインにやっていた、遊びやサークルではバスケットボールをやっていたのですが、社会人となってからは、ほとんどスポーツをする機会がなくなり、体が大きくなっていく一方です。それだけでなく、ちょっとした運動で

もすぐに疲れてしまったり、筋肉痛になってしまったりと、体の変化が著しい状況です。今のところ体調を崩すようなことはないのですが、今後の健康のためにも、今年からは少しでも体を動かす時間をつくって健康な体作りをしていきたいと思っています。

また、次の年男となる12年後は、今の自分と見違える成長を遂げたいと思うので日々精進していきたいです。今後共ご指導の程、よろしくお願い致します。



年男

感謝

鯨川堰土地改良区

馬 目 善 市

今年は亥年、私は還暦を迎える年となりました。歳を重ねるごとに1年が早く感じるようになり、自分が幼い頃、「60才」と知ると本当に年配の人だと思ってみてましたが、実際自分がその年になるとは、まだ信じられないような気がします。

さて、年が明け今年の抱負をと考えた時、今年は定年なので、定年を迎えるにあたりいろいろなことに感謝する1年なのかなと思います。

まずは、両親に感謝したいです。この世に生を受け60年間、余裕はなかったのですが不自由なく過ごして来れたこと、農業一本で大学まで教育を受けさせてもらったことに幸せを感じています。

近年、両親が年老いて仕事ができなくなってきたり、私が仕事の傍ら手伝いをしており、なかなか両親のようには上手くないことが多いです。稲作などは、水管理がうまくいかず毎年収穫が下がって

きて情けなく思っています。野菜についても、土作り、種蒔きや肥料、消毒作業がわからず大変苦労していて両親の偉大さを痛感しています。

次に、地元建設会社を経て、縁あって鯨川堰土地改良区にお世話になって33年間勤めてくれたのも先輩や役員総代、関係各位方々のご指導ご協力の賜物と感謝しております。建設会社的时候は、先輩にいかにも簡単に作業ができるかを考えなさいと言われ、私の座右の銘として常々思い起こしていた日々ですが、私もこの年になり、ようやく先輩ができ指導する立場になりましたので、諸先輩方の教えをもとに今まで培った技術や知識を後継者に引き継いで鯨川堰の発展の為に一助になればと思っています。

最後になりましたが、結婚し家族ができ30年の年月が経ちました。大病もなく楽しく健康で過ごせたことを家族に感謝したいと思います。震災に遭い家や農機具、車など失ったが、家族全員で無事で良かったと思います。父などは、母の制止も聞かず津波を見に行つて津波に追いかけられ命からがら逃げてきたと今では笑い話になりますが、命あってこそ話せるものでもあります。辛い日を家族一丸となって復旧作業を行い、現在の生活を取り戻しさらに団結が深まったような気がします。このように、たくさんの方々に感謝の気持ちを持ち、頼られるような仕事に

年男

「年男を迎えて」

水土里ネット西根堰

石 川 博 利

今年5度目の年男を迎え原稿依頼があり、ふと前回の時はどうかと2007年の「むつみ」を水土里ネット福島ホームページから探して読み返して見ました。自分の原稿はさりと流し、その他の記事に12年の月日を感じ、感慨深く読み返しました。

私は、昭和53年に高校を卒業して福島県土地改良事業団体連合会に勤務し、平成18年より伊達西根堰土地改良区に勤務しました。土地改良区に勤務するようになり、当時は毎日が慌ただしかった時でした。前回の年男は丁度そのような変化の年でし

邁進したいと思います。これが年男としての私の抱負です。

職連協及び会員のさらなる発展、ご活躍をご祈念申し上げまして、結びの言葉とします。

た。

その後、一年一年積み重ねながら、気がつけば干支の一回りが過ぎてしまいました。自分自身の変化はあまり感じませんが、この12年の中の最大の出来事を振り返れば、やはり東日本大震災の発生であり、今もまだ解決しない問題が多く残っています。

一方お祝い事として、平成30年は、土地改良区として大変大きな行事がありました。土地改良区が管理している水利施設の「西根堰」が開削400年を迎え、平成30年11月に記念式典と祝賀会を開催いたしました。本土土地改良区としても前例がありませんので、事業アドバイザーの方のご指導を仰ぎ、なんとか当日を迎えました。国、県そして土地改良関係の方々をご来賓として迎えて無事終了することができました。特に福島県土地改良事業団体連合会より

会長のご出席をいただき、さらに多数の職員のご協力を得ましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、私の大きな変化は年男の前年にあったことに気づきました。干支の縁起話で亥の由来は「無病息災」の象徴であり、特徴は「勇氣と冒険」とありますので、大きな変化

年男

私の財産

水土里ネット福島

三浦 功 司

選択の時期が近づいてきています。私は来年度末には「フリーエージェント」となります。

数年前までは「自由契約」で終了となるはずでしたが、今や残留が第1の選択肢となります。

「フリーエージェント」となるからには自身の評価を受けることとなりますが、「私の財産」はどのような評価を受けるのでしょうか。

私は学生時代、家に帰ったらほとんど勉強をしませんでした。

や行事を無病息災で無事に過ごすことが出来たことかなと思い、多くの人に感謝し、新しい年を迎え勇氣を持つて冒険に望みたいと思います。最近はずが増えすぎて、街に出没してご迷惑をかけているようですが、私も今後も心して過ごして参りたいと思うところです。

小学生の時に宿題をほとんど家ではやらなかったことから、「家は勉強する場所ではない」との習慣のまま過ごしていました。

しかし、化学メーカーに就職後は、必要に迫られ一日中勉強することになりました。

でもそれを苦痛に感じることはほとんどありませんでした。

そのとき、必要性を実感してすぐに役立つ勉強は、訳もわからずただやらされる勉強と違うことがわかりました。

その後、神奈川県の研究所に出向したときには、「仕事するときは仕事に打ち込み、遊ぶときはしっかり遊ぶ。その切り替えが重要だ」ということを最初に教えていただきました。

私にとっては、勉強で得た知識も趣味等で得た経験や出会った人々も大きな財産です。

価値の評価とは、その時代によっても人によっても大きく違います。

かつて農地は貴重な財産であり、山野を開墾し、水を引き、大切に引き継がれてきました。

しかし近年では、所有者が不明で放置される農地が増えてきています。

この農地、農村の評価はまた変わっていくかもしれません。

考え方の基本も変わってきています。

「道徳」や「礼儀」を最優先に考える人は減り、「合法性」と「経済性」重視で「見つけなければ無罪」が

年女

「今年もお世話になります」

水土里ネット福島

齋 藤 孝 美

あけましておめでとうございます。

私は、本協議会の事務局を担当させて頂いております齋藤と申します。

常識と考える人が増えているように感じます。

この考え方も年号とともに変わるかもしれません。

さて、私はどう評価されるのでしょうか。

私の知識や経験の価値を評価して活用してくれるところはあるのでしょうか。

私の人格や人脈を評価してくれるところはあるのでしょうか。

息子たちの就活の心配をすることも終わり、「あとは転職でもなんでも好きにやってくれ」という段階にやっとなりました。

これからは、私の就活ですが……。

会員の皆様には、日頃本協議会業務の他にも何かとお世話になっております。

さて、今回は「年女」ということで、原稿を書かせていただくこととなりました。

しかし、何を書いていいかわからず、とりあえず亥年の「運勢と性格」をネットで検索してみたところ、「勇氣があつて物怖じしないタイプで、辛抱強く何事も最後までやり遂げる

意志の強い責任感のある人なので、周囲からの信頼があります。」と出てきました。はて自分は？と問いかけてみると、確かに勇氣はあり、物怖じもあまりしないような気はしますが、責任感とか信頼があるのの部分に関しては、全く自信がありません。当然のことながら猪年生まれの人全員が全く同じ性格のわけもありませんから。

続いて「責任感と意志の強さで粘り強く頑張りますので、将来豊かで安定した生活ができます。」と書かれていました。将来はどのような生活が送れたらと願うばかりです。

私事で恐縮ですが、舅・姑も他界し、子供達もそれぞれ嫁ぎ、現在は夫婦2人でひっそりと(?)暮らしています。(ぼーっと暮らしている)の方があっているかも。

そして、お盆や正月に孫達が来るのを楽しみに日々頑張っています。

最近、10年後の自分はどんなっているのか?と考えることがあります。

はたして夫婦共々健康でいられるのか、はたまた経済的に困るようなことはないのか等心配はつきませんが、せめて現状維持できるように運動をしたり、食生活に気をつけたりと自分なりに心がけたいと思っています。

ます。(現実には、中々実行できていませんが。)その他にも、自分の楽しみを見つけ、有意義な時間の使い方ができるようにしたいと思っています。

まだ現職なのに先のことばかり書いてすみません。しかし、1年はあつという間に過ぎるので、今年は今まで以上に早く過ぎてしまうような気がしています。



「今年もよろしく申し上げます!!」

皆さん快く引き受けて下さり、感謝しております。まあまりのない文章になってしまいましたが、最後に今年も皆様にとって良い1年となることをお祈りします。そして、今年も本協議会へのご協力よろしくお願いします。

職連協の事務局をやらせていただき、多くの方々とお話しをしたり、コミュニケーションを取ることが出来、業務の上でもとてもプラスになったような気がします。たまに無理なお願いをする事もありますが、

新会員のみなさんより

新会員となつて一言

福島市土地改良区

佐藤 務

平成30年度より新会員となりました「福島市土地改良区 事務局長」の佐藤 務です。

まず、冒頭にお話ししたいことは、私は、平成30年3月迄福島市役所建設部・都市政策部に38年間奉職しましたが、農政サイドは一度も歩いては来ませんでした。

突然、第二の就職先に「土地改良

区」と聞いた瞬間、不安と焦りに見舞われました。本当にこれからやっていけるのか？毎日「土地改良法」とのにらめっこでした。道路法や都市計画法は、見慣れてはいましたが、中々馴染めるものではありませんでした。

「賦課金」「決済金」など聞きなれない言葉が飛び交い、まずは言葉を覚えなければならぬと、日々勉強の毎日でありました。

また、平成31年4月1日から「土地改良法」の大幅な改正もあり、苦悩の毎日をごしております。

人口減少や高齢化社会を迎えている現状ではありますが、農業施策は、日本の根幹となる事業であり、「土地改良」は日本の命綱と言われておりますので、今後とも期待しているところであります。

今年度も残り少なくなりましたが、これからも精進して参りたいと思いますので、今後とも宜しくお願いいたします。

土地改良区業務体制の活性化に向けて

梁川町土地改良区

小賀坂 清

会員の皆様はじめまして、本年4月より当改良区理事長からの要請があり、甘んじて事務局長としての役務を引受け、早8ヶ月を過ぎようとしています。

皆様には、大変お世話になります。皆様に、JA職員として定年退職後は、昨年まで人生セカンドステージとして公共的関連職場に勤めてきました。

年齢的にも、第3次の人生スタイルを模索する年頃ではありましたが、我が郷土の環境保全を担う職場でもあることから、敢えてその職責をお引き受けした次第です。

私に課せられた業務使命は、主として当土地改良区が局面する業務課題等の体制整備を担う業務となります。

これらの業務案件は、短期的に問題解消が出来得る事案では無く、今更ながらではありますが、如何にそ

の任務を全うすべきか？今、何をどうしていくべきか？又、懸案に対してどのように善後策を組立てていけば良いのか？等々、を、内外的により効果的で目に見える成果を実践していくことに尽きると思います。

自分なりに、常に「進取果敢的な精神」で業務遂行して行ければと、日々自問自答の繰返しです。

公務的団体職員として、自らの行動姿勢が関係方々に対する影響を及ぼすことを十分に考慮し、責任ある「公正・公平」な対応に心掛け、人生最終ラウンドご奉公として概ね全うするべく努めていきたいと願っております。

土地改良区関係各機関の皆様には、各般に亘りご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

宜しくお願いいたします。

郡山市東部土地改良区

吉田 江里

会員の皆様初めまして、私は平成29年4月より郡山市東部土地改良区に臨時職員を経て、職員として勤め

させていただいております、吉田と申します。

私は当土地改良区に採用される以前、業務用食品卸売業の会社で事務員として働いておりました。ここに勤務するまでは土地改良区という言葉も知らず、農業とは全くの無縁でした。そのような状態からのスタートなので、初歩的なことすら分からない私に、上司や先輩方は優しく丁寧に指導してくださり、今では徐々に業務の流れを理解し、任される仕事も増えました。

改良区での私の業務内容は、総務と会計です。電話応対は勿論のこと、組合員の方からの問い合わせや要望に自信を持って対応するには、豊富な知識と経験が必要なので、今も日々勉強の毎日です。

先日参加させていただいた土地改良区体制強化事業財務・会計実践向上研修では、土地改良区の組織運営基盤強化についてや、会計記帳実務を仕事事例をあげて学ぶというものでした。知識の浅い私はついていくのがやっとでしたが、とても勉強になりました。

また、他の土地改良区の方や関係機関の方々とお話しする機会があり、情報交換や為になる話を聞くこ

とができ、大変貴重な経験をさせていただきました。

研修から戻り内容を報告すると、上司は、

「初めはよく分からないと思う。でもそれを何回も繰り返していけば何となく分かってくる。そうすれば、これはどういう意味だろうと自分なりに調べるし、理解できるようになる。そうやって少しずつ勉強して、自分のものにすれば良いと思う。」と言葉をかけてくださり、とても勇気付けられました。

今年で勤務歴2年目となります。知識も経験もまだまだ足りず、周りの方々の力をお借りする事と思いますが、これからの研修会に積極的に参加し、今後の業務に取り入れて、一日でも早く一人前になれるよう精進して参りたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

宜しく願い致します。

水士里ネット福島

さいとう 希理都

初めまして。平成30年の4月より

福島県土地改良事業団体連合会に採用していただき入会させていただきました、斎藤希理都と申します。よろしく願いいたします。

私は、福島県立福島明成高等学校を卒業し、新卒として採用していただきました。現在は福島県土地改良事業団体連合会農村振興部測量課に所属し、日々の業務に取り組んでいます。

高校時代には環境土木科に所属していた為、授業や実習などで基本的な測量の学習をし、測量士補も取得していたので、ある程度の測量の知識は身につけているものだと思っていたのですが、いざ卒業し就職、測量課の技師となり業務としての測量となると高校時代の知識はほぼほぼ使い物にならず、入ったばかりの頃



の私はわからないことだらけでただただ戸惑うばかりでした。

採用から8ヶ月が経ちましたがまだまだ覚えることがたくさんあり、毎日が勉強です。日々の業務では出張が多く、県内の様々なところへ行き現場で測量をしています。機械の操作にもある程度は慣れ、トータルステーションやGPSの機械の操作はほぼほぼ覚えることができました。

事務仕事においてもMercury Evo EtoやGNSS proなどのソフトの操作もだんだんと覚え、データの取り込みやはき出し、計算など簡単な作業であれば難なくこなせるようになります。出張内業両方において、日々の成長を感じることが出ています。

これからの目標・課題としましては現場への道や現場内での場所、ソフトの使い方や書類の書き方作り方、また業務に関する様々なことをひとつずつしっかりと覚えていき、現場などで地元の方などに質問されても自信をもって説明できるようにになりたいと考えています。

最後になりますが、まだまだ未熟で心配ご迷惑をお掛けするばかりではありますが精一杯精進していく所存でありますので、皆様ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し

上げます。

宜しく願います

郡山市東部土地改良区

大越^{おおこし}隆広^{たかひろ}

平成29年度より、郡山市東部土地改良区にお世話になっております大越と申します。福島県土地改良団体職員連絡協議会の会員の皆様にはお世話になっております。

当土地改良区は、郡山市の東部、阿武隈川右岸に沿って南北に展開しております。主水源として、三春ダムに取水塔があり、南に金沢調整池、北に高柴調整池がございます。

私の業務として施設の維持管理をしております。

採用当初は、施設の場所を覚えることが大変だったのが良い思い出の一つです。わからない事ばかりですが、職場の方々に分かりやすく指導していただき、とても感謝しております。これから施設は老朽化してきますので、一つ一つ責任を持って仕事に取り組んでいきたいと思っております。

当土地改良区の管理施設を紹介したいと思います。当土地改良区の中

央管理事務所があります金沢調整池（郡山市田村町金沢地内）は、本堤が重力式コンクリートダム、副堤が均一型フィルダムとなっております。

春は桜、秋は紅葉がとても綺麗な施設です。以前までは、桜や紅葉など目にしてただ見ているだけでしたが、年を重ねるにつれ日々の変化などに目がいくようになりました。毎年4月にウォーキングイベントを開催しておりますので興味のある方はご参加ください。

まだまだ、勉強不足な私ですが、組合員のために力になれるよう日々努力して参りますので、これからもご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

宜しく願います。

柳津町土地改良区

鈴木^{すずき}悠愛^{ゆうま}

平成30年4月より柳津町土地改良区に勤務しております、鈴木悠愛と申します。悠愛（ゆうま）という名前は読みにくいため名前だけ読むと女の子と勘違いされるのですが、今年25歳の男の子です。今回は平成30

年度新会員の「むつみ」に載せる原稿執筆依頼ということで、自己紹介や柳津町土地改良区に入って体験したことを書きたいと思っております。よろしく願います。

私は、地元の柳津町出身で、家の周りに田んぼや畑が広がる自然豊かな環境で育ち、田んぼや畑を遊び場にしていた記憶があります。また、私の家が兼業農家であったことから田植えや稲刈りの手伝いをしていたため、田んぼや水路が身近なものと感じていました。

しかし、柳津町土地改良区に勤務する前は農業に全く関わらない仕事をしていたため、勤めはじめて8カ月になりますがまだまだ戸惑うことばかりです。

まず一番悩まされたことが専門用語です。小さい頃から農作業の手伝いをしていたため少しは理解できるのかと思っていましたが、私が理解していたのは一握りでした。そのため意味の分からない用語はメモを取り何度も調べ、確認をしています。現在は自分で作成した用語集を片手に頑張っています。

二つ目は組合員との関係です。電話対応の際や現場で組合員の方とお会いする時など、「だれの息子だ、

どこの地区からきた」など聞かれるのですが、柳津町どこの地区の誰の息子ですと挨拶をすると組合員の皆さんから「最初から出来る人はいないんだから少しづつ覚えて柳津町の農業のために頑張れ」と声をかけていただけるので嬉しく思います。今は、一刻も早く顔と名前を覚えて頂けるように組合員の方のお名前や住所、地名などを覚えようとなるべく多くの方に接するように心がけています。

また、先日、地元の小学校に社会科学総合学習で柳津町土地改良区が管理をしている施設や頭首工、田んぼなどを案内する機会があり、たくさんのお児童が真剣に頭首工の歴史やため池の役割などを学習していました。その中で驚いたことが、私よりも小学生のほうが頭首工の歴史や隧道の成り立ちを詳しく知っていて、質問に答えることが出来ず、小学生よりも私のほうが学習していました。来年は児童の質問、疑問に適切にわかりやすく回答出来るようにし、そして、柳津町土地改良区の伝統や柳津町の農業の歴史などしっかりと伝えられるように頑張りたいと思います。

最後になりましたが、組合員の皆

様、そして各土地改良区の皆様、今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。また、今後研修会などでお会いする機会があると思いますのでその際は宜しくお願い致します。

これが本当の水商売

矢吹原土地改良区

佐藤 治学

会員の皆様、はじめまして。平成30年4月1日より矢吹原土地改良区にてお世話になっております佐藤と申します。当改良区の職員となってから早いもので、すでに半年以上経過し、年度終盤に差し掛かっています。このまま歳を重ねるたびに、自分の人生もすぐに終盤を迎えてしまうのではないかと、たまに焦ってしまう今日この頃です。

さて、東日本大震災以降、多くの地域で毎年渇水が続いており、数十年に一度といわれている大渇水です。今年度は県内で「水不足」「渇水」という言葉が非常に目立ちました。テレビや新聞でも多くの報道があったことから、いかに異常気象及

び渇水が深刻であったのかがわかります。羽鳥ダムに關しても多くの報道に取り上げられ、落水日であった8月20日は1日中、取材対応に追われていました。

当改良区では例年5月上旬から9月上旬までが通水期間となっています。まとまった降雨もなく、非常に暑い日が続いたせい、羽鳥ダムの貯水は回復することはありませんでした。このまま計画通り通水を行った場合、7月中に落水してしまう恐れがあったため、一番水が必要な8月上旬に用水を供給できるよう断水計画を数回変更しました。断水により乾ききった水路。そして10cm以上の大きな亀裂が入った田んぼ。

日本は水の恵みが豊かな国であると言われていますが、断水により水が供給できないために割れている田んぼをみると、なんとも歯がゆい思いでした。事実、稲が枯れてしまい、収量が大きく減ったとの報告もありました。羽鳥ダムの貯水率がほぼ満水で開始できたものの、状況は大渇水と呼ばれた平成28年度に似た法線を描き、万が一、貯水率が少ない状態で通水開始していれば、間違いなく全地区壊滅的な状況に陥っていたかと思います。

また、河川についても状況が非常に悪かったと言えます。自流水は非常に少なく、水位が安定しない日々が続き、毎日のように水位警報が鳴ったのを覚えています。深夜、休日の出勤も多く、一時も油断の許されない状況でした。

「たかが水、されど水」

水は、無限ではなく、見方によってその価値は高くも安くもなる。改良区での仕事を通じ、改めて水の大切さを痛感しました。渇水は自然の天候によるものではあるだけに、これを解決するのは容易なものではありませんが、こういった苦難な時ほど、土地改良区の力が必要とされるものと考えています。今年度も土地改良区役職員、羽鳥ダム管理所職員の惜しまざる尽力により、何とか乗り越えることができました。また、人の知恵と力によって、どんなに苦しい状況でも、米作りができるということを改めて認識でき、心強くも思いました。

生命の源となる「命の水」を大切に思い、矢吹原土地改良区に相応しい職員になるよう、日々努力して参りますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

平成30年度土地改良区職員となつて

南相馬市土地改良区

高野 啓二

私は、南相馬市職員として36年間勤務し、平成29年3月31日に定年退職いたしました。この度ご縁があり平成30年4月1日から土地改良区職員となり、主に総務・管理業務を中心に担うとともに基盤整備事業にも係わっています。

これまで地方公務員として様々な部署で業務を担ってきましたが、土地改良事業に関する業務は初めてのこととなります。これまでの知識経験を活かしつつもわからない事ばかりで日々学びながら業務に取り組んでいます。

ご存知のとおり、南相馬市は概ね3分の1の区域、また、当土地改良区事業地区（南相馬市原町区）では一部の区域が福島第一原発事故に伴い避難指示区域となり、多くの住民が避難を余儀なくされました。約2年前の平成28年7月に避難指示が解除となりましたが、今もって避難されている方々がいる環境となってい

ます。

この様な中、当土地改良区では、現在、施設の維持管理はもとより県・市と連携し11地区の基盤整備事業を実施しており、うち9地区が震災後のスタートとなっています。南相馬市としてもこれまで多くの復旧・復興事業を進めていますが、東日本大震災前と比べ増加しているこの基盤整備事業は、住民の帰還促進を含め農業再興のための一つの起爆剤に繋がるものと思っています。私も3地区に係わっており地元説明会等の際に農業者の高齢化や後継者不足さらには津波被災と原発事故の影響など地域の皆さんの切実な思いや現実の厳しさを実感しています。

さて、土地改良区に勤務し約8ヶ月が経過しました。私にとって土地改良区は言わば第二の人生における就労の場となりますが、日々の業務を通して土地改良事業や土地改良区の役割の重要性を徐々に認識しつつある中、まだまだ微力ではありませんが、これからの時代にふさわしい豊かで住みよい農村づくりを目指し、県、市を始め地域に住んでいる人たちの理解と協力を得ながら、事業が進展するよう努めていきたいと思っています。加えて、私事で大変

恐縮ですが、10月に初孫が誕生いたしました。次世代のためにも自分自身のためにも、もう一踏ん張りしようと思っている今日この頃であります。

最後に、「県土地連さん」には、本原稿作成に関し私を選定いただいたことに御礼申し上げるとともに、日頃何かとご指導ご協力をいただいておりますことに対しまして改めて感謝申し上げます。

土地改良区職員としての抱負

福島市土地改良区

須田 剛広
すだ たかひろ

「フクシマシントチカイリヨウクが職員募集しているけど？」

母親からそう言われ、私は、すぐに漢字変換することができませんでした。どの分野の職種なのかすら分かりませんでした。

福島市土地改良区に採用していたく前は、福島県内の小中学校で臨時の教員として働いておりました。30歳を過ぎても、毎年行われる教員採用試験になかなか受からず、将来

にやや不安を抱えながら日々を過ごしておりました。

4月から土地改良区の勤務が始まり、今後の農業のために頑張るぞという気持ちと同時に、全くの畑違いの仕事にかなりの不安がありました。予想通り、職場内で交わされる会話は、聞き慣れない言葉であふれていました。会話の内容が理解できず、自分一人だけが外国人のような気分でした。「フカキン」、「チュウサンカン」、「タメンテキ」、「ノウシン」：等々。私の最初の試練は、これらの用語を頭の中で漢字に変換し、意味を正確に理解することでした。8か月以上が経ち、専門用語や職務内容を少しずつ覚えてきているのではないかと思います。しかし覚えが悪く何度も同じことを聞いてしまうことが多いです。そのたびに丁寧に教えてくださる職場の先輩方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

どちらかといえば、私は昔から東京などの大都会に憧れを持って、将来は絶対に東京で暮らしたいと思っておりました。さらに私は大の運動音痴でインドア派です。土地改良区の仕事は、田んぼ、畑ならばまだしも、「ここは果たして道なのか？」と思うようなところを通り、現場へ

向かうことも多いです。沼の泥にはまり足が抜けなくなったり、森の中で方向感覚を失い迷子になりそうになったりしました。全てが想定外でした。しかし、季節によって移り変わる田園風景の美しさに触れたり、農家さんからおいしい梨や桃をたくさんいただいたり、これまで何気なく住んでいた福島市の、大都会にはない魅力に気付くことができました。

農業従事者の減少や高齢化などの日本が抱える農業の課題については、以前から知っているつもりでしたが、自分には関係のないことであると思っていました。しかし、土地改良区の仕事で様々な現場に行ってみると、果物の木が切られてしまった果樹園や、手付かずになり雑草が生い茂った田んぼが、身近にたくさんあることに驚き、他人事ではないなと思うようになりました。

これからの福島の農業はどのように変化していくのか、全く想像することができません。しかし、人が生きていく上で重要な産業であることは、昔も今も未来も変わりません。変化に対応し最新の技術を学びつつも、ずっと昔から受け継がれる農地や施設を守り、組合員の皆様が安心して農業を営むことができるよう、

精一杯努力してまいります。知識も経験も不足しておりまだまだ未熟で、これから学ぶべきことがたくさんあります。会員の皆様、どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

よろしく願い いたします。

矢吹原土地改良区

吉田 啓恭
よしだ たかゆき

私は、平成30年4月から矢吹原土地改良区に勤務しております吉田と申します。宜しくお願い致します。

入職して早いもので8ヶ月が経過しました。入職前は土地改良区の仕事はどんなことをしているのか知りませんでした。子どものころから近所に田んぼがありましたが、その水がどこからどのようにして流れてきているのか考えたこともありませんでした。入職してすぐに上流から水路をたどりましたが、普段何気なく通っている道のすぐそばに水路があったり、地下にパイプラインが埋まっていたりと、なぜ今まで気が付かなかったのかと思うことがたくさん

ありました。

私は郡山市出身なのですが、矢吹町や鏡石町の地名がわからず、通水期に水が来ないと電話を受けても場所がすぐに頭に浮かばず苦労しました。

また、劣化したポンプを使用している地域の方を集め、状況を説明して事業の申し込みを提案させていただいた時も、地元の方々の質問に即答することができなかったり、上手に説明できなかったりと、自信をなくし落ち込む時もありました。

そんな時でも事務局長をはじめ先輩職員の方々、理事の方々にフォローしていただいたり、声をかけていただきとても感謝しております。

また、入職後にマナー講習を受講したり様々な研修会に参加させていただきました。研修会では他の土地改良区の方や様々な方とお話しさせていただき、とても勉強になりました。

今年度は降雨量が少なく、各地でダムが干上がり、何度もテレビのニュースに取り上げられました。どんなに調整しても各地区の末端まで水を持つていくことができず、週3日の断水で田んぼはひび割れ、稲は枯れ始め、有効な対策を講じること

も出来ずもどかしい日が続きました。そして、自然を相手にしている仕事の難しさを改めて、感じました。

最近では、新しい道路を作ったり新しい建物を建てるなどによって関係機関との協議が増えているので、不備のないよう気を引き締めて業務に取り組んで参ります。

その他にも、未収賦課金の問題や今後の土地改良法の改正に伴う変更等、課題はたくさんありますが、自分にできることを精一杯努めて参ります。

そして一日も早く組合員の皆様から必要とされる人材になりたいと思います。

今後ともご指導の程、宜しく願い致します。

土地改良区職員に なりました

戸ノ口堰土地改良区

高野 豊
たかの ゆたか

平成29年9月より、戸ノ口堰土地改良区職員となりました高野豊と申します。結婚後に会津若松市に来てから24年間ほど土地改良換地土や測

量等の仕事をしておりましたが、当土地改良区で圃場整備事業を実施することもあり、途中で採用されました。

それまでも、水土里ネット福島の方々と土地改良区の方々とは圃場整備等の業務で大変お世話になっておりましたが、自分が土地改良区の職員になるとは思ってもいませんでしたので、今でも不思議な感じがしています。土地改良区の業務内容は概ね知っていましたが、実際に勤めてみると、予想以上に多岐にわたる事務や対応業務が多いと感じました。1年が経過しても、まだまだわからないことが沢山ありますが、圃場整備事業などの大きな事業は、大変ですがやり甲斐もあり、経験を生かして取り組んでいます。その他、水利施設整備事業や水路の維持管理、工事積算などにも関わっており、職員や役員の方々にもいろいろ教わりながら、また日々学びながら業務に励んでいます。不安な点は事務所内でディスカッションしてみると解消することがありますし、新たなアイディアが出ることもあるので、コミュニケーションの大切さも感じています。

戸ノ口堰の本水路は1623年に

猪苗代湖から引いた水路で、昭和50年代に再整備した約31キロの施設は、水路トンネルも多く存在し、今後どうやって改修や維持管理をしていくかが課題になっています。戸ノ口堰の歴史や現状を知るにつれて、先人の努力や水路の大切さがわかってきて、自分がその歴史ある重要な財産に関わることができる喜びと責任の重さを痛感しているところで

す。水田に絶やさず水を供給するために、老朽化が進む水路を維持管理する方法や技術など、学ぶことがまだまだ沢山あります。

農業情勢や土地改良法が変動する中で、仕事の内容も変化してくると思われませんが、今現在の課題を一つずつこなしながら、新たな動きにも対応できるように学びながら業務に取り組んでいきたいと思っています。圃場整備事業に於いては、微力ながらも集落の集積や法人化等をサポートして地域農業に少しでも貢献できれば幸いです。

最後に、研修会等の会合が多いことにも驚きましたが、土地改良団体職員の皆様と情報交換ができるだけでなく、こちらの抱える問題を相談することで解決の糸口にもなるので、とても有意義な時間であり、皆

様の豊富な経験や知識がとても参考になります。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

高卒の新入社員

安積疏水土地改良区

白石 哲也

会員の皆様はじめてまして。平成30年4月より、安積疏水土地改良区にてお世話になっております白石哲也（しらいしてつや）と申します。福島県田村郡小野町出身の19歳です。

私は、採用されるまでは、福島県立郡山北工業高等学校の3年生でした。高校三年間が終わったら就職したいと考えていました。そんな時に、担任の先生から安積疏水土地改良区を勧められて就職先を決めました。求人票の内容は、安積疏水土地改良区の水を供給する路線にある自然エネルギーを活用した水力発電所の管理などでした。それに、猪苗代湖から各地区に水を供給する水路の管理などがありました。

実際に入社してみると驚くことばかりでした。私は、水利課に所属することになりましたが、管理する水

路の多さや長さ、範囲など多くのことに驚かされました。

かんがい期になると基本の仕事として水路の巡回があり、その水路を見に行くのですが場所や水路の名前を覚えるのに苦労しました。その他にも多くの路線や施設があり、減多に行かない場所などに行ったりすると名前や場所など忘れてしまうことがあります。

かんがい期は巡回だけでなく、電話の対応や、その内容によっては、「水路内にゴミがつまって水が流れない」や「水が来ていない」など多種多様なことに対応しました。今年は雨が例年より降らず、気温が高い日が続き渇水になり、取水制限までかけるようになりました。それでも、多くの看護人たちと協力し合い乗り切ることができました。

月曜日と木曜日の週に2回は発電所に行き点検などを行います。発電所内にある機械の名前や用途、発電機の運転・停止の際に発電所内でおこることなど、表示ランプやメーターなどを見て多くのことを学びました。ですが、これもほんの一部だと思うのでこれからも多くのことを学んでいきます。発電所を管理する上で必要な資格があり、それを取得

できるよう努力していきます。

入社して3ヶ月が過ぎてから、現場に行く時には私が運転するようになりました。「〇〇線に向かつて。」などと言われたりして分からない時があったり、分かっていても遠回りのルートだったりすることがあります。なるべく早く、最短のルートで行けるように、先輩方に聞いたりして全て覚えられようになりたいです。

非かんがい期になると、水路の草刈りなどを業者に発注することを頼まれました。先輩方から、昨年の資料を参考に作り方などを教えてもらい、業者との現場立合での説明の仕方など学ぶことができました。

まだまだ半人前の私ですが、先輩方々から指導していただき、日々経験を積み重ね、一日も早く一人前になれるよう精進します。今後とも土地改良関係の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

土地改良区職員になって

富岡町土地改良区

山田 秀顕

平成30年4月に富岡町土地改良区

に採用されました山田秀顕です。私は富岡町で生れ育ちましたが土地改良区に入って富岡町の事を知っている中で何も知らなかったと思うほど知識がありませんでした。私の家はお寺で水田もありましたが私の小さかった頃には農家の方に依頼して田植えから稲刈りまでお願いしていました。そのため、ほとんど田植えの経験がありません。職員として働いている中でやっていくのだろうかという不安はありますが先輩や組合員の方々に教えて頂きながら頑張っていると思います。

仕事の中の一つでため池のハザードマップ作成や注意喚起の甲板設置の仕事がありました。注意喚起の看板は見えるだけでなく、足を止め引き返してもらうことが大事だからです。なぜなら私自身が小学生の頃ため池の堤体で釣りをしていた足を滑らせたため池でおぼれた経験があるからです。

富岡町では今現在も町の約半分が帰還困難区域に設定されています。農家の大半の方が避難中のため震災前の水準まで回復する道のりはまだまだ遠く課題が多いですが少しずつ営農再開に向けて動いている中で組合員の方の役に立ちたいと思っています。

ます。

最後になりましたが、役員や組合員の方々福島県土地改良事業団体連合会の皆様、今後研修会等でご一緒させていただく機会があると思いますので今後ともよろしくお願いいたします。

出合いに感謝

雄国山麓土地改良区

飯塚 いづか 望 のぞみ

平成30年10月1日より雄国山麓土地改良区の職員となりました、飯塚望と申します。

よろしくお願いいたします。

同年の4月より臨時職員として勤めておりますが、この職に就くまでは土地改良区の事を正直分かりませんでした。私の家は農家ではないので、田植えや畑仕事の経験もなく、目にするのは母の家庭菜園程度で、田んぼにどのように水を引くのか、その為の水路や畑かんの施設などがある事も、田畑を所有している事で賦課金がかかることさえ知りませんでした。

入職して約8か月間、庶務会計係

として業務に携わってきましたが、私のつたない対応にも温かく見守ってくださる組合員の方々に感謝しております。以前の私は田畑を所有している方ほとんどが作物を作り土地を有効に活用していると思っていました。しかし、居住地が遠く活用できない方や管理ができないので手放したいという方、年金生活で賦課金が支払えないという方、組合員の方にも様々な方がいる現状を知りました。

また組合員の国営償還金の負担を軽減しようと県や国に対する要望活動を目の当たりにし、土地改良区の業務の広さに日々驚くばかりでした。

会計業務の合間に、理事や総代の方々と一緒に、通水、落水作業に参加する機会があり、農道を通る事も初めてで、畑かん施設や、水路の場所もまるで迷路のようで、右も左もわからない私に皆さん温かくお声かけして下さい、緊張がほぐれたのを覚えております。

田畑に水を供給するまでには、水路や貯水槽などの清掃作業や施設の修繕作業など、私に関わった作業はごく一部でしたがこんなにも大変な作業があったことを知りました。

農家の方が色々な苦勞をされ作物を作る、その影には、土地改良区の存在が大きかったのだと学びました。

この8か月で私が理解できた土地改良区の内容はわずかもかもしれません。身につけなければいけない知識も沢山あり、まだまだ不安なことから、ご迷惑をおかけしてありますが、職員の先輩方、理事、総代の皆様、そして組合員の皆様方の支えに感謝し、一日も早くお役に立てるよう日々精進していきたいと思っておりますので、皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

よろしく願います

水士里ネット福島

笠原 かさはら 綾乃 あやの

平成30年度4月より、福島県土地改良事業団体連合会にてお世話になっております、笠原綾乃と申します。よろしく願っています。私はいわきで生まれ育ったので盆地の気候に慣れておらず、福島の息苦しい暑さの夏はとても辛かったです…。月日というものは早いもので私が



入社してからあつという間に半年以上が経過してしまいました。職場や仕事、社会人としての生活リズムにも粗方慣れてきたのではないかなと思います。

大学時代では農業土木を学んできましたが、そのほかにも野生動物学や植物生態学などの講義も受けられる少し変わった学校でした。私はラーメンが大好きで、大学が位置していた青森県のラーメン屋も色々と回りましたが、基本的に味が濃く油が多い、さすが短命県日本一というラーメンが多かったです。時々恋しくなっていました。

そんな話はさておき、私が農業土木の道を志すきっかけの一つとなつたのが今から7年前に起きた東日本大震災でした。当時の私は中学生

で、卒業式を終えて一息ついていたところだったような気がします。幸いにも私の実家は震災による被害は少なかったのですが、原発による影響が今後どうなるかわからない状態だったので、春休みは自宅に待機していました。高校に入学後、いつものように何気なくテレビを見ていると多くの悲痛な声を聞くなかでも、土木の分野が復興を目指して少しずつ前に進んでいるニュースがよく目に入りました。その都度、私もこうして誰かのためになるような人間になりたいと漠然と考えるようになり、また父親も同じような職業であつたことから農業土木という世界を知り、現在に至りました。

現在は施設管理課に配属されており、主にストックマネジメント事業に携わっております。現場での作業が多く足を引っ張ってしまわないか不安でしたが、上司のサポートもあり、自分が行っている作業は今後どのように活かしていくのかを意識しながら行動できるようになりました。また、現場での作業を行っていくうえで、農業水利施設の維持管理にどれだけの労力がかかるものなのか実感することができ、自分が携わっている業務が少しでも農家の方の役に

立てたらいいなという一心で日々の業務に勤しんでおります。

これからの目標として、向上心を持ち続けて日々の業務に取り組みことを第一に、少しでも早く戦力になれるよう多くを学んで、得た知識をしっかり自分のものにしていきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

はじめまして

阿賀川土地改良区

丸山 瑠依

私は、平成30年2月より阿賀川土地改良区の臨時職員として採用して頂き、4月より職員となりました丸山瑠依と申します。

採用されてから早1年が経とうとしております。2月には頭首工の除雪作業から始まり、春には賦課通知書の準備、代掻き期のゲート操作、ごみ上げ、草刈りと毎日が新鮮で充実した時間を過ごさせていただいております。

私の祖母は農家だったので、農業をする光景は見てきたつもりでしたが、営農する上で欠かせない水の

存在と、田を潤すことに関心を持つたことは、恥ずかしながら一度もありませんでした。

改良区に勤務し、一番感動したことは、この広い受益地を富川頭首工のたった一つの取水口から潤すことができる、網のように張り巡らされた水路です。初めて現場を案内していただいた際、管理している田の面積にも驚きましたが、取水口からだいぶ離れた水路の末端にまで、水が実際に流れる様子を、なにより感動したことを覚えています。

夏場には、水が薄くなっている地域はないか、ゲートに異常がないかと毎日のように現場を見に行っていました。その時、排水路に流れた水を用水路へ反復させている仕組みや水の流れが滞らないよう落差をつくるなど、本当に様々な工夫により設計されていることに気付きました。

今まで自然の風景のように何気なく目にしてきた、用水路や田が、多くの人の手で作られたものであることを知り、この自然な光景を維持することの大変さや重要性に土地改良区の仕事の魅力を感じました。

改良区の業務は土地改良法などの法律関係や工事関係などとても幅広く、初めて耳にする用語も本当にた

くさんあります。私に務まるか不安に思うことも多々あります。知識が乏しい状態で取り組んでいることに申し訳ないと思うこともありすが、一つ一つできることを増やし、いつも丁寧に教えて下さる職員方や、顔を合わせるたびに気遣い、暖かい言葉を掛けて下さる役員方に感謝して、一日でも早く仕事を覚えていきたいです。今後とも皆様のご指導のほどよろしくお願いいたします。

「自己紹介と目標」

水土里ネット福島

半田 大樹

むつみをご覧の皆様こんにちは。農村振興部換地課に配属となりました、半田大樹と申します。私は、平成27年10月より本会臨時事務職員として勤務させて頂き、昨年度土地改良換地士資格を取得し、今年度4月に採用となりました。これもひとえに、皆様のお力添えのおかげと、深く感謝しております。

さて、むつみの原稿執筆依頼を受け、何を書くか、どう書くかと悩むこと数週間、期日間近となりました

ので、簡単な自己紹介と今後の抱負を書くこととしました。

私は、福島市内で生まれ、高校卒業まで県内で過ごしました。東北を離れて千葉の大学に進学（今年度タツクル問題でお騒がせしました）、管理工学を専攻しました。順調に大学で学んでいた3年目、帰省中に東日本大震災に遭いました。震災の翌日、混乱の中、国道4号線を通り、郡山市から実家のある福島市へ、5時間を掛け戻った時の車中からの景色は、生涯忘れることできない記憶となりました。

震災を経験し、故郷の福島復興の想いから地元での就職意欲が強くなり、遠回りをしましたが、様々なご縁により、現在土地改良会館2階でこの原稿を書いております。



換地課に配属され、臨時事務職員として2年半、正職員として半年が経過しました。私は、農業分野の学習経験がなく「換地」の意味も知らず、入会当初は、聞き慣れない言葉

が多く、分からない単語を調べ理解するので精一杯でした。換地業務の流れを早く覚えるべく、先輩職員の皆様に様々な出張の機会を設けて頂き、その中で地権者の方に説明をする業務や研修会でのアンケート調査は、私の大学での専攻分野である管理（マネジメント）工学科で学んだことを大いに活かせると考えます。

また、今年度より、換地士として南会津町の2地区を担当することとなりました。南会津町は父の出身地のため私も土地鑑があり、これも何かのご縁かと考え、皆様のご期待に応えるべく、誠心誠意努力します。

最後に、今後の抱負について触れてみます。私は学生時代、研究成果など自己の考えを多くの人に伝えることを目標としておりました。大学院へ進学し、学内成果報告会や外部の学会など、大きな場での研究発表の機会に恵まれた結果、達成するに至りました。この経験から培った能力を日々の業務に活用したいと思っております。主に、相続関係の聞き

取り調査や、換地内容を地権者の方々に説明をする際、全員の理解を得られるように、聞き取りやすく分かりやすいプレゼンテーションを心掛けます。

新たな気持ちで心機一転、邁進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

福島に来て

請戸川土地改良区

芳門 里美

新年あけましておめでとうございます。突然ですが、私は東京都出身です。社会人3年目までを都内で過ごした後、転職を機に福島県に来ました。

県外出身ということもあり、福島県の気候や言葉、人柄、土着愛は私にとって新鮮で、とても面白くてたまりません。さらに福島の人につつまらう料理はすべて美味しくて、特におふかし、漬物、煮つけなどは感動です。みなさん世話好きで、よく笑って、よく怒る。そんな印象の福島が好きになって気づけば6年目

です。方言に関しては、大分わかるようになりましたが、電話での会話だと聞き取りづらいこともあり、まだまだ勉強が足りません。

以前、原子力災害により、避難先で過ごす元農家のみなさんと田植えをする機会がありました。普段は杖をついて歩いている方が、畦道を杖なしで歩き、田んぼのぬかるみに入って、「何年ぶりの田植えだあ」と言いながら、手際よく手植えをこなす姿を見ました。今は避難でできなくなってしまう農業でも、その技術は体に染みついている、それは人を元気にするのだと感じ、「農業はすごい」、「農業に関わりたい」と感じたことが土地改良区で働き始めたひとつのきっかけです。

土地改良区にお世話になり、もうすぐ1年が経ちます。夏になれば、草刈り機を肩に担いで、自転車で草刈りに向かう地元のベテラン農家の方を横目に出勤、秋は小動物を車で轢かないように帰宅、冬は暖かいという浜通りの気候でもやはり寒いと思う毎日です。

現在、請戸川土地改良区は原発災害による帰還困難区域を含んでおり、帰還や営農再開を断念する方、悩んでいる方など様々いらっしゃいます。

そんな中で、ふるさとで営農・生活をする方は増えることはもちろん、それらを断念した方にとっても、田んぼや流れる水がふるさとの風景にあり続けることが大事だと考えます。

現在、初めての業務ばかりで、覚えることで精いっぱいになってしまいうこともあります。そうした日々の業務の先に、私の好きな福島のみなさんの生活やふるさとの姿があることを忘れずに請戸川の一員として努めていきます。

よろしくおねがい
します。

東根堰土地改良区

ひしめま
菱沼 茂樹
しげき

平成30年6月から東根堰土地改良区にて勤務することとなりました菱沼茂樹と申します。福島市生まれの仙台育ちで、震災後に実家のある福島市飯坂町に戻ってきました。福島に戻ってからはしばらく、家の前の畑で家庭菜園の真似ごとをしてしばらく過ごしていましたが、東根堰土地改良区の組合員である親戚の方からお話があり勤めさせていただくこ

とになりました。職場の皆様を始め、理事長や理事、総代の方々、組合員の皆さんから温かく迎え入れていただき、本当に感謝しているところ です。

6月からこの土地改良区の職員になってあつという間に6か月が経ちました。子供の頃から祖父の田んぼの田植え、稲刈りや脱穀の手伝いみたいなことをしていましたが、土地改良区が何の団体であるのか、どのような仕事をしているのかを親戚の方からお話をお聞きするまで、恥ずかしながら何も知りませんでした。勤めはじめて実際の業務内容を知れば知るほど、単に田んぼや畑の灌漑設備の管理や保守の仕事だけではなく、その地域の農業において重要な役割を担う大切な仕事であることがわかってくると、無知な私が職員として務まるかどうか不安になりました。しかし職場の皆様から細かく丁寧な指導や私の失敗のフォローをしていただいていることで毎日を何とか過ごしております。

今年の夏は猛暑でしたが、幸い私たちの土地改良区の幹線水路では水不足になることはありませんでした。しかし末端の水路では水がこないとの組合員の方々からの御相談が

あり、現場に訪れて確認をすることが多くありました。その場その場で丁寧な対応をしている先輩方の姿勢を見ると、組合員一人一人に丁寧に向き合わなければならないことを心がけようと思いました。

土地改良区のある伊達市保原町には恥ずかしながらあまり土地勘がなかったため周辺の地名、特に受益地のある字や地名と場所を一致させることに四苦八苦で、特に特殊な読み方をする地名などは、会話に出てきたときなどはそれが地名なのかどうかを理解することができませんでした。なるべく早く把握できるように地図を傍らにおいて地名と場所を照らし合わせています。

現在は土地原簿をパソコンに入力する業務を任せてもらっております。組合員の皆さんの田んぼを一筆一筆ずつ間違いない入力していく作業は地味で大変ですが、昔の台帳や書類を引っ張り出して調べてみると、その田んぼの思わぬ来歴などが時々垣間見えて大変興味深く作業をさせていただいています。

最後になりましたが、まだまだ右も左も分からない未熟者の私ですがこれから職場の皆様の指導の下、様々なことを覚えて早く職場の皆様

や会員の皆様のお役にたてるように日々精進していききたいと思います。

土地改良区職員と なつて

鮫川堰土地改良区

狩野 聡史

皆さん、はじめまして。私は、平成30年4月からいわき市にあります鮫川堰土地改良区の技術職員として勤務しています、狩野聡史と申します。どうぞ、宜しく願います。

新会員ということで、簡単ではございますが、自己紹介をさせて頂きます。出身は、いわき市平で、現在36歳です。高校卒業後は地元を離れておりましたが、家族が増え子育てをしていくなかで、地元でのびのびと子育てをしたいと思い、十数年ぶりに家族でいわきに戻ってきました。そんな中、ご縁があり土地改良区の職員として勤務することになりました。

改良区に勤務し最初感じたのは、一民間企業では考えられない歴史の重みです。通常、一般企業では設立30年程度でも老舗の企業という

認識ですが、当改良区は1853年に先覚者である鈴木定八氏が企図したのが始まりであり、優に100年以上の歴史があります。当初は、沿革誌や資料に目を通す度に、現在に至るまでに係わってきた方々の熱意や事業内容に圧倒され、私で大丈夫かと不安に思うこともありました。

業務においては、突発的な水路の補修から長期的な検討を要する工事案件の対応、さらには台風や大雨の対応としてのゴミ上げ作業や草刈りなど、工事に係わる以外の対応も幅広く経験させもらい、当たり前ながら日々知識の無さを痛感しております。また、現場などで水路の近くを通った際には、倒木が無いかや水路敷の草がどのくらい伸びているかなど、常に水路の維持管理を気にしている先輩方の意識の高さを目の当たりにし、自身の至らない点に気づかされています。

反省は多い中でも私自身が毎日充実していると感じるのは、疑問に思うことは何でも聞ける雰囲気があり、かつ色々な過去の経緯ややり方を教えてくれる諸先輩方がいるため、少しずつでも毎日身になっていくことがあるからだと思います。

また、台風に伴う取入口のゴミ取

り作業時は、悪天候の中での作業で大変さもありながらも、通水が確認できた時の達成感、安堵感は何とも言えないものがあります。これまでの生活ではあまり気にすることの少なかった日々の天気や降水量などを毎日確認し、「明日は雨が強そうだから、取入口は大丈夫かな」とふと思う際、この土地改良区の一員になつてきたなと実感することがあります。

現在、当改良区の水路は重ねた歴史に伴い、施設の老朽化が顕著に見えはじめています。また、当所は農業用水としての水路だけではなく、上水道用水・工業用水として利用する企業とも水路を共用しており、ひとたび断水となれば多岐にわたり影響が発生するため、早急な対策が求められています。まだまだ、至らない点が多いですが、事業を活用した補修の検討や異常発生の前防止などに努め、安定通水に向けた維持管理に先人の方々と同じような熱意を持って、取り組んで参りたいと思います。

土地改良区職員と なつて

棚倉町土地改良区

長田 麻美

昨年9月より臨時職員として、今年度4月からは正規職員として当改良区に採用いただきました長田麻美と申します。執筆のご依頼を頂き、大変恐縮ですが、この1年余りで感じたこと、今後の抱負をお伝えしたいと思います。

郡山のサラリーマン家庭で育った私が、棚倉町の兼業農家に嫁いで十数年。3人の子育てと家事に追われる毎日でしたが、末の子供が小学校にあがったことを機に本格的な仕事復帰を考えていました。農家に嫁いだおかげで、このような形で農業に携わる仕事に就けたことに不思議なご縁を感じております。

しかしながら、土地改良区とは何をしているところなのか正直分かりませんでした。未知の世界に飛び込みましたが、早々より、理事会、総代会、賦課金徴収業務と想像以上に多忙な毎日。会議では、初めて聞く専門用語が飛び交い、組合員さんか

らの問い合わせや苦情対応に戸惑う日々でした。特に今年の秋は132条検査、総代会、県単ストックマネジメント事業採択に伴う資金借入の手続き、賦課金徴収業務が重なり、心身共に休まる日がなく、正直不安にかられておりました。しかし、「苦勞して仕事をしたことは、必ず自分の糧になるから」との局長の温かい言葉に励まされ、何とか必死でついていっているという状況です。

会計を担当していますが、2人だけの職場のため、業務はそれだけにとどまらず、いろいろなことに目を配らなければなりません。

夏に工事発注にむけた測量の補助として現場に赴きました。耕作するには悪条件ともいえる地域の方々が、苦勞して管理している様子に胸が痛みました。この棚倉町も、耕作放棄地、後継者不足等様々な難題が今後増加する一方だと思われます。高齢化が進む中で、維持管理をしていくことは容易な事ではありません。改良区の職員として、組合員の方々の意見に耳を傾け、子供達の世代に、とりまく未来の農業がより良いものになるよう、微量ではありますがお力になればと思います。組合員の方たちに寄り添い、いつも

どうしたら状況がよくなるか、今後耕作ができるのか。この事を一番に考え、仕事をしている局長を始め役員の方達をみて、少しずつではありますが、仕事に光が見えてきたような気がしております。

今後、土地改良法の改正があり、担当する仕事として複式簿記の導入など難問が待ち受けておりますが、まずは、目の前の仕事を一つずつ覚え、様々な事に柔軟に対応できるように、諸先輩方にご指導頂きながら、日々精進して参りたいと考えておりますので、今後とも宜しくお願いいたします。



表紙写真 「ふくしま むらの輝き2017」写真コンテスト
「豊作万歳稲刈り」 熊田 行雄さん

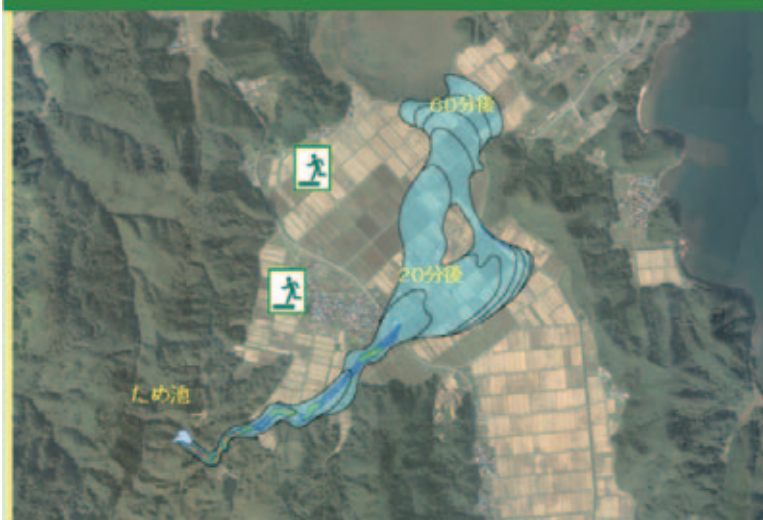
水土里ネット福島は、水土里を未来につなぐ農業農村整備に取り組んでいます。

水土里ネット福島は、会員並びに地域社会の要請に応じた、新たな業務及び支援に向けて各種の取り組みを展開しながら、活力ある農業・農村づくりのお手伝いをしております。



【新たな取り組み】

水土里情報システム(GIS)を活用した、ため池ハザードマップ作成への支援



本会が所有する【水土里情報システム】と【簡易氾濫解析ソフト】を使用して、ため池が決壊した場合の浸水想定区域図が作成できます。



福島県土地改良事業団体連合会

〒960-8502

福島市南中央三丁目36番地

TEL 024-535-0371

FAX 024-535-1200

<http://www.midorinet-fukushima.jp>